

姫路市医師会報

○編集後記

No. 321 平成 17 年 11 月 1 日発行

お天気の良い日曜日、仁寿山へ行って来ました。

私の家は姫路の北西に位置しています。急に思い立ち、車で出発、姫路バイパスを東へと進み、姫路南ランプで降り、市川にかかる橋を渡りきります。ここまで 15 分。更にその先、脇道をしばらく進みます。姫路バイパス沿いの細い道です。30 数年バイパスは通り慣れています、この脇道は初めて通ります。景色がわずかに違うだけで、旅行に来た気分です。朝のテレビでやってきた「遠くへ行きたい」のようです。脇道が終わると、田圃と畑と家並みがありました。目的地へは道路地図にポツンとついていた仁寿山の▲印が頼りです。そのあたりを眺めると、てっぺんに大きなアンテナの塔がある山が判りました。いろいろなアンテナが頂上にあることは調べがつかっていました。仁寿山です。秋の気持ちよい日差しのなか、山を回り込むようにして、車を進めていくと、道はだんだん細くなり、車一台がやっととなります。突然目の前に、見覚えのある図の書かれた案内板が出てきました。家を出てから 30 分ほどで、この半年間いろいろ思い描いていた仁寿山にたどり着きました。

仁寿山をご存じでしたでしょうか。私は姫路には大学を卒業して以来、結構永く住んでいるのですが、これまで知りませんでした。半年ほど前の医師会理事会で、先年亡くなられた藤戸孝純先生が姫路市医師会雑誌に連載されていた姫路地方の郷土医学史、「仁寿山雑記」をまとめて出版してはどうかという提案があり、私どもの広報委員会が担当することになりました。平成 6 年から 13 年にかけて姫路市医師会報に載せられた原稿を改めて読ませていただき、大きな感動がありました。会員の皆様の中には当時の医師会報の藤戸先生の記事を毎回楽しみにしておられた方も多くおられるようです。今ごろ感心するとは遅すぎると叱られるかもしれませんがご容赦下さい。せっかくの連載のあった頃の会報を熱心に読んでおりませんでした。当時の広報委員の先生方、申し訳ありませんでした。

1821 年、姫路藩酒井家の家老、河合寸翁が今の仁寿山の地に私塾を開設し、更に医学寮を併設されました。この「仁寿山」が藤戸先生の連載のタイトルであり、この度、医師会報別冊として出版するものも同じタイトルです。江戸時代に医学校がこの姫路の地に作られていたとは、大変な驚きであります。さらに、以後の播州地方、特に姫路の医学史がどのようにして現在にまで至っているか、いろいろな観点から調べられています。今もご活躍の先生方のご先

祖様も登場されますし、姫路市医師会のなりたちのことも判ります。

仁寿山の麓に戻ります。案内板には「仁寿山雑記」の表紙を飾る仁寿山校略図が描かれています。私には見慣れた図となっています。あいにく車の前には柵があり、それ以上車では進めません。数年前は可能だったとのこと。歩いて登っていきます。緩い坂道が続きます。スニーカーで来たのが正解です。紅葉には少し早かったようですが、きれいな緑です。木々の間から姫路の町並み、瀬戸の海も望むことができます。ハイキングコースになっているようで、ベンチのある小径もあります。更に登るとアンテナ塔のある山頂にたどり着くはずでしょうが、楽しみは次回に残して途中で戻ってきました。本当は日頃の運動不足が如実に証明されたための勇気ある撤退です。

姫路市医師会報別冊「仁寿山雑記」は来年早々に皆様のお手元に届く予定にしています。今一度、私たちの先輩の足跡をたどってみてはいかがでしょうか。そして仁寿山にも足をのぼしてみてください。

乞うご期待。